

～星野村山村留学センターにて「ネイチャークラフト」～

自然豊かな星野村での山村留学が始まったのは平成2年からで、既に約250名の子どもが巣立っています。現在も3年から6年生の児童8名が、親元を離れ、留学センターで寝泊まりしながら小学校に通っています。地元の方々に見守られながら、様々な行事に参加し、自然にもどっぷり浸り、伸び伸び育っています。その子供たちを対象に、星野村女性林研「あいりん会」の協力も得て「ネイチャークラフト」を実施しました。



どんぐり等の木の実や、木の枝、杉やクスノキの台座など、自然の素材を生かした工作に取り組んでもら

いました。まずは、タイサンボクの実を使い、今年の干支である「イノシシ」作りに大半の子供が挑戦してくれました。また、見本の中でマスコットの持ち込んだ山小屋に触発されたのか「ログハウス」作りに取り組む児童もいました。それは男子のみならず、女子も負けじと、準備していたログハウス用のミニ丸太では小さすぎたのか、これを2本継ぎ足して「豪邸」作りに取り組んでいました。何れも独創性に富み、出来栄も上々で、子どもたちの感性にはいつも感心させられます。



結局、予定オーバーで2時間近くに及んだ作業時間はあっという間に過ぎ、それでもなかなか止めようとしません。午後からは「茶の文化館」での行事が控えているとのことで、寮母さんあたりから「早く昼ご飯食べなさい」と促されながら、しぶしぶ終了せざるを得ませんでした。

慌ただしく食事を済ませ、次の行事に向かう忙しい子供たちですが、何事にも精一杯取り組む姿勢はとても健気で、頼もしく感じられます。

この時期、雪などで凍結が心配される地域のため、タイヤチェーンを準備して臨むことになりましたが、幸い、今年は暖冬で、この日も小雨とは言え、雪でなかったことにホッとしたものです。その雨も終わるころには止み、明るい日差しが差し込んで、子どもたちの将来を示唆しているようでもありました。

スタッフ：西田、石橋、諸石（報告：諸石）